

長期原理・文化政策・基礎科目

1)生滅性

1-1 因果性

一面の構図を見て成功や失敗という極論と判定を示す態度が出現する。そんなに簡単に物事の良し悪しを行ってよいか。今日的な人々の歪な変容性を認識する事が少なくない。過程と結果に至る間の因果が単要素化して、快不快、善悪美醜、真偽や正負の判定を下す。生と滅の間が短くちょっとした事で直ぐにカッとなり過敏な暴力的反応が生まれる。

1-2 過程と結果、動態と静態

住居という対象を知っている。出来上がった家を知っているとできるまでの過程を含め知っているでは同じ知るでも大きな違いを生む。知識が有る認識と内容に反映される。対象の深淺広狭の観点を生む。

1-3 理想と現況と方法

理想主義と現実主義という両者に対して間の観点が起こらないか。活動習慣の歪性、静態と動態と動静、根幹性の短縮、歪化、二極対立、相対の物理強弱の進行、

1-4 概念世界観

生滅不可分という感性が生じる。自他との良好な相関を求め言葉や概念領域観を形成する思考が起こり、基準性を作る過程と結果を生む。あるべき姿、意図する概念、世界観、領域観の導出が減退し、皮膚感覚の即効的な因果に支配された生産習慣の体質や性格が広がる。

2)過程と結果と習慣

2-1 断片部分最適、持続的体系減退、犯罪病理性、生の劣化

効率、衛生、収支、少ない投資で多くのリターン、物理的効果を常態する、生物の体系と周期と持続を作る発想や思考が弱まる。羅列断片的、一過的、衝動、錯綜や重複の言葉と論理を多産する。外界への良好な生を作る性格が乏しく自己の要望ばかりを外界に求める真相にある。粗末な表現と生産を繰り返す、暴力略奪、詐欺という犯罪性と病理性が進む。

2-2 行為と思考と概念の相関、活動習慣

活動習慣と成果の関係が生まれる。日々の産出と検証、反省と改善の作爲が続き、あるべき領域観を集約する行為と思考と概念の相関を生む。簡潔に領域観を集約し自領域の性格や全体と部分の相関を掴み、内外に示す態度が生まれる。この集約に歪性が起こると日頃の活動の不適正という結果と過程の相関が浮かび上がる。無思考性、無思慮性、

2-3 生の歪性と抽象性の概念、意味不明な文化観

産出と検証と改善の活動習慣、過程性と結果性、文化なる概念の曖昧性、意味不明性、文化財？根本と基礎の歪性は、意味不明の増す抽象概念の形成と運用に陥る。肥満性の表面化、整理整頓、整合化されない支離滅裂の論理や理論、原理性が確立されない一貫性が見えづらい、気ままなご都合主義、一過的欺き、趣旨、論旨が分からない、基軸の痩せた枝葉の量産、枝葉的な性質が中枢や根幹に配置される、生と領域の歪性の広がり、未成熟、歪な人格不在、人形ロボットの活用消費、



3)集約性

3-1 集約観と成果性

〇〇は××である。経験と理論と定義を生む。集約性の概念には過程と結果の成果性が示される。集約概念を見て良し悪しを判断する思考には合理性が生まれる。一面を見て安直な評価を下すというよりも、集約性には経過と活動を凝縮した成果の要素が生まれる。

3-2 考えの集約、習慣と性質、自律・人格

3-2-1 粗末な表現

何冊も書籍を出しコロコロ考えが変わり混乱と負を与え儲けを得る生産と経営は健全が映りづらい。良い質感や確信が乏しく生の粗末さと醜態を晒す。外界を犠牲に自存と成長を企てる詐欺や略奪、売国。歪な出世欲権力欲財欲を有する内面と外形、歪な上昇志向。哲学と科学と技術の相関と文化の真相が現れる。

3-2-2 愚図な基調、堂々、公明正大

羅列、断片、錯綜、一過的、言葉を騙しの道具に用いず罍を仕掛け欺き利益を得る怠けと愚図な気性によらず、堂々と最新を保ち表し作る表裏と内外と動静を生む。歪な停滞と負の因果を招かぬ前進的未来型の力と性質の成長と好循環の軌道が増す。生命人間の不動と変動が整理される。制御・自律、人格を生む。

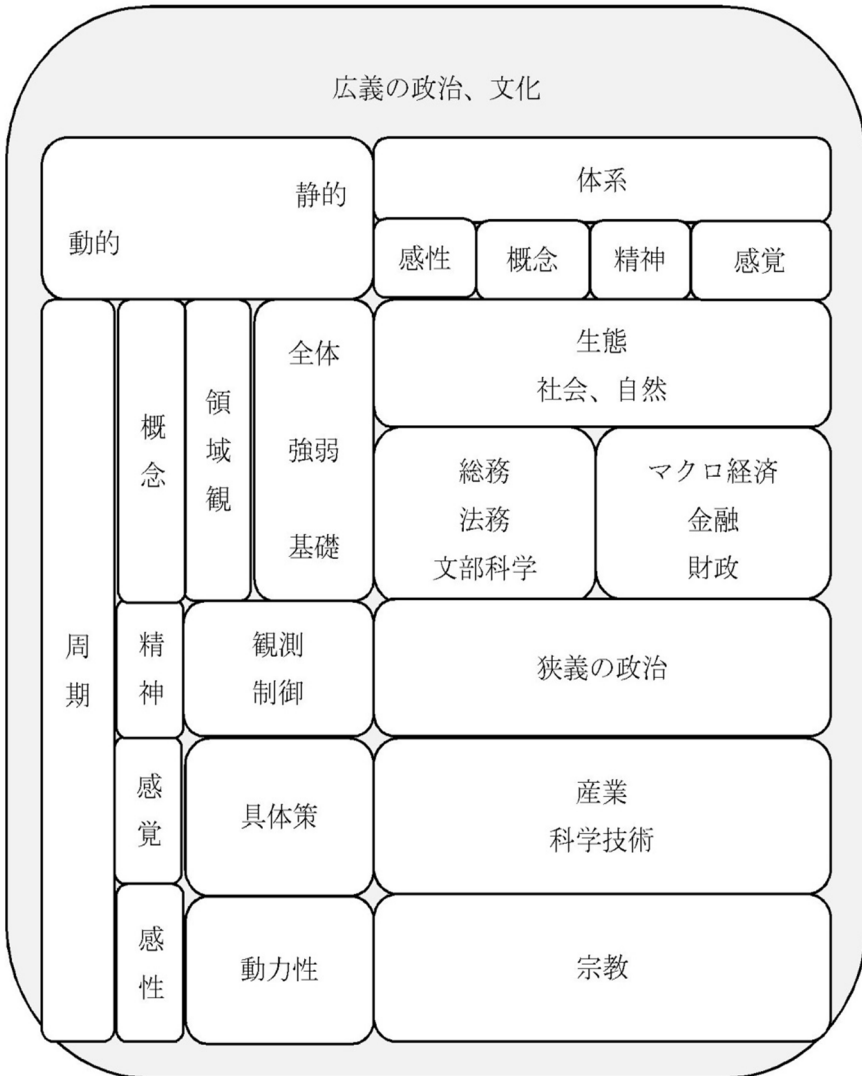
3-2-3 集約観・一行目、中枢の入れ替え

過去の研究と今日に至る経過を把握し反省と長短を整理しあるべき基準を引き出し前進の作為を投じる過去と現在と未来の相関を生む。自他との良性を求め、無駄な労力や負荷を予防し成果を一行目に表す。

この面に問題や未熟が映ると産出過程を見てもしょうがない。良好な産出に至らないまま歪な集約を示す。概念と身体の整合が乏しく形骸化した状態や歪な基準と肥大化した負の領域性を広げ深める。成長の程度や段階、健全性の程度が測定される。構造と配置、人的要素のミスマッチという生と領域の不健全を生む。放置できない判断を生む。

3-2-4 文化観

意味不明な文化観は負の性質を広げる。根本性の病んだ真相が表面化する。習慣と性質は容易に治らない。良好な集約観を持つ素材を選び中枢から入れ替える判断が進む。良好な成果性はどのようにして作られたか、過程を伺い信頼が増す。成果性のみを盗み欺く性格にないか。性質の真相質実が把握される。



3-3 理論家と実務家と歴史家

このような広義の政治観と文化観を持ち、観測と制御を担う狭義の政治観や理想性の導出を担う教育研究という特定観を産む。狭義の政治において、あまりに理想性に偏った態度を進めることの危うさを見る。適正な全体大局観を引き出し部分的な領域の性格と配置が作られる。

「右翼や左翼、保守や革新、現実と理想」なる抽象観念を用いる態度の歪性が起こる。二項性に対して間の因果、具象と準優勝と抽象の観点が弱まる事の問題が生まれる。概念形成上の粗雑と運用の歪性を生じさせる。右往左往の激しい変動を齎せる。適正な根本且つ全体大局観を導出し意味内容の理解と納得を増し現象に及ぼせる。適正な交通整理が進み不毛な対立と深まりに陥らぬ制御を遂げる。「理論家、実務家、歴史家」という分化と統合の仕組みを生む。

3-4 言葉概念の作用

しばしば、政治などに関心はないなどという表現が見られる。どのような政治観を与えられて用いる姿にあるか。適正な概念の形成と明示の作用に問題性が生まれる。教育研究の働きは適正か。生命と領域の根本性と基礎性が現象の起源性を生む。健全な生命人間性、創造活動性、産出性という体系と周期の持続観を集約し領域の価値観と実現性の力が生まれる。言葉や概念の重要な作用が生まれる。

4)無機質合理性

4-1 力の支配性

歪な主従性、労使性、男女関係、子供と大人、力の強弱と支配、

4-2 力と運用、資源流通

物理依存、軍事依存、権力、財力、寡占性の需給構造、
商品、人材、金融、情報、知識、概念、見識、等の形成と流通、

4-3 消費性と生産性、一元と分散

利用と活用、消費性、狩猟的

育成、教育、主導、再生産と持続性の在り方、農耕的、
規格量産、規格化、一元管理、統合、格差、多種少量、多様、分散、

4-4 デジタル性

情報化、サービス経済化、パソコン、スマホ、インターネット、
フェイクニュース、サイバー犯罪、

5)根本性と基礎性の教育

5-1 根本性の破綻

頭と手足の分断、生の歪な変容、根本性の狂い、破綻的、モラル喪失、

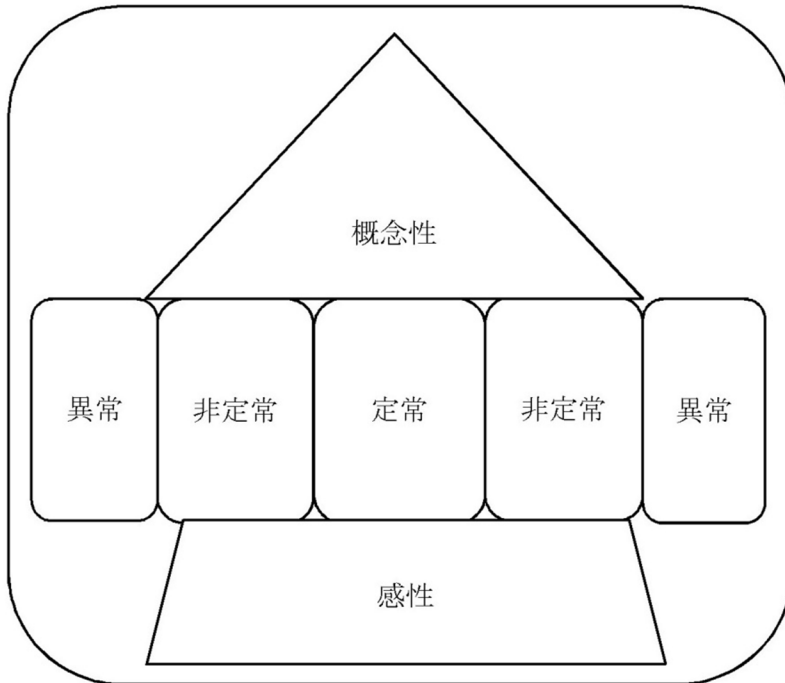
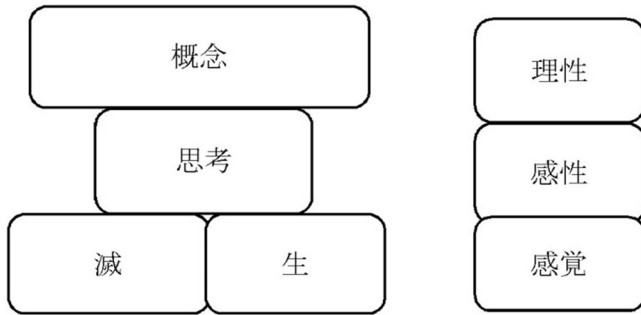
5-2 根本性の問いと答え

生とは何か、変わりづらい生の適正、領域性の原理、
活動法則、生の成長過程の適正、創造の全体性、包括性、学問体系、

5-3 領域の基軸観点、総合集約

生命、生産、技能、経営、政治、教育、経済、文化

特定と全体、社会と自然と生態、定常と非定常と異常、犯罪病理性、根源
と根幹と産出、体系と周期と持続、不動変動、普遍的不変、樹木と人間、
真理の探究、中枢周辺全体、局所構造型質、短期中期長期、



6) 広義の世界観

6-1 基礎と応用

「感覚と精神と概念と感性、」という根本且つ基礎を土台にもって、「情報と知識と概念と見識、技能と政策と概念と見識」という広狭深淺に照らし一貫を有する創造体系と周期の持続を遂げる。

6-2 定番性

変わらぬ生の在り方を不動に求め対象の広がりと制御を生む。外界との良好な相関と持続を実現する創造観や世界観を生む。何を価値観に存続させるか何を守りたいか。不動と変動の相関が作られる。保守なる理念の内容が構成される。変わらぬ定番を求め変則や応用に連ねる。

6-3 抽象観念と準抽象と具象の整合明瞭

「保守と革新、右翼と左翼、維持と変動」の概念が、曖昧で不明瞭であり、混乱性の事象を招く原因に映し出される。概念形成上の問題は運用上と流通上と配分上の問題に作用する。下流性の改善に留まらず、起源や上流の適正を果たし二次三次の適正と好循環が促進される。

6-4 基礎性と専門性

根本観点を抑え「社会主義や自由主義」なる概念と大別に及ぶ。根本や基礎の観点が起こらず、抽象の増す概念と運用に外れる姿は健全性から外れ生の狂いを広げる。基礎の歪な専門や特定の予防に働く。

国家観や憲法観を主要な対象に絞り、問いと答えを求める特定分野の研究が見られる。生命や人間観を基礎性に求め、国家なる社会性の範囲を想定し根本原理を不動性にして対象の想定と適用を行う相関を生む。基礎性的の見解が定まらずに応用を増す事の不適正を生む。

6-5 安定と活力

個々の体験と反省と改善の習慣と蓄積の末に、確かな基準性や標準性を構成し実践と検証と改善を図る性格が生まれる。産出と検証と改善の活動習

慣を生む。同じような失敗を何度もやる性格に留まるか、反省と改善、建設的、好奇心と向上心をもって、安定性と活力性と上昇志向の軌道を作る生の基本的な在り方が生まれる。

6-6 人格性と育成主導性、狩猟と農耕

人間への肯定感と人格なる価値観を望む。生命人間性が技能と産業性、社会性と自然性と生態系を主導する性質を生む。全知全能性なる存在を緩やかに浮かべながら不完全性という認識を持ち、持続的な探究心と完全性に向けた真理の探究と生命力が生まれる。

力への異様な依存に陥り健全な感性と思考と行為の習慣を停滞させる。生命人間の成長の止まった姿を見る。不快感と醜態性を伝える。過剰な力、ストック性を削減し健全な生の修復に回る。略奪的狩猟性を基調にするか。農耕という再生産と持続の形態を基軸に持つか。過度な人間美の弊害と共に前者の過剰は破壊と破滅性を生む。

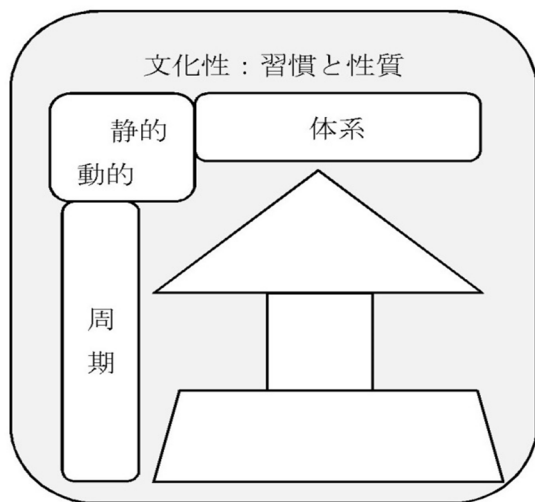
6-7 樹木と人間、洗練集約の概念と世界観

枝葉が多く整理整頓されぬ言葉や概念は根幹の停滞と動態不良を生じさせる。頭が大きく幹が細く短い根つこの歪性を生む。枝葉を削ぎすぎ根幹の適正を欠き即効と制御不能の急進と暴力を作る根の不良が生じる。頭が大きく根幹と根の成長が弱まり雨風に耐えられず生を途絶えさせる。全体性のバランスを意識した体系と周期と持続を求める。萌芽から成長と安定と衰退と成熟という生態の成長過程と段階性における育成や操作の勘所が整理される。「樹木」という身近な生を映す観点を常態し自己認識の鏡に働き生と持続の習慣と文化を生む。万人性を対象に平易な理解と納得の増すシンプルな洗練集約の概念と世界観を産み現象と運用の程度の良い動静が作られる。

6-8 理論と人物、絶対と相対、理性と感性、公と私

純粋性の理論形成と個別的歴史性という要素を併せ持ち最良的動静を作る広義の世界観を産む。特定文化性の意識が弱く純粋理論と一様な適用を

増す姿は健全性が映りづらい。あまりに過ぎた特定性か、あまりに過ぎた純粋理論か、両極の過剰に陥らぬ動静が作動する。純粋理論の中にこの面を加え健全な感性と思考と理性を含む広義の普遍的不変に向けられる。教育研究は純粋性の割合が増す特徴を持ち政治性は特定文化性に意識が強まる傾向が進む。絶対真理性と相対の力の強弱という観点を生む。両面に長短が生じる。相互補完の観点が起こり持続的成長と真の保守性に向かう。理性と感性を失った感覚過剰に異常性が生まれる。



純粋性の理論の探究と導出という思慮を失うと自己を客観化し、自他との適正な相関を作る態度が弱まる。自律と制御の弱まる歪性に陥る。

自己を過剰に悪く見たり、問題性に偏って長所性と肯定性を認めない批判性の増す過不足を起こす。上から見下ろし自己優位と外界の下等という評価を強め、自己の産出と改善に力が投じられない歪性を生む。

保守の過剰は肥満と陶醉、意味不明性の理論過多は詐欺の真相を生む。標準性の確立と動静の適正に関心と作為が向けられる。

生の健全と持続、永続思想と世界観, 広義の世界観

特定文化性

神仏

成長過程論

静的
動的

体系

感性

概念

精神

身体

周期

世界観

活動

思想

生態性

社会性

自然性

技能、産業性

生命人間観

普遍的不变

動静観

成長過程論

創造包括観
学問体系

活動性

生の原型

広義の普遍的不变

静的
動的

永続思想
世界観

特定文化

真なる調和性
七色の虹の架け橋

広義の普遍的不变

静的
動的

純粹理論

経験性

概念と人的要素

7)文化性

7-1 創造の枠組性

一主体性には、性別、年齢、家族、職業、技能、産業、事業体、地域、社会性、自然性、生態性、生命人間、世代間という要素を内蔵する。各面の利益性や価値性を有し総合集約される。国民という要素のみならず多様な要素を併せ持ち一主体性が構成される。各要素はどのような優先と序列性、割合と相関を持つか。問いが生まれる。

各面の利益と利害の衝突と矛盾が生じる事に対し全体大局の世界観を問ひ生の最良を模索する真理の探究という創造が起こる。大きな概念と枠組と個別特定の相関が生まれる。

部分最適と縦割りの感覚が強まり全体大局への関心や思慮が減退し過剰な衝突と対立と破壊や消滅性の力が増す事について総合性の利益観を引き出し調和と持続へ向けた作為を進める。分化と統合の適正をもって一領域の生命力が存続する。

7-2 永続的生命性

生滅不可分の矛盾の感性が起源性に生じ感性と概念と精神と身体の相関に根幹と不動の人間像が作られる。根本性が全体性と大局性を規定する枠組性をもって社会と自然と生態という特定観を配し全容の認識を生む。文化観は産出の結果性のみならず過程を含む持続的な習慣と性質を指す概念となり生の健全と持続の集約観を産む。生物物理の有限的な生命に対し代を跨ぎ繋がる永続的生命を望み作る根源的欲求と実現の創造法則を生む。

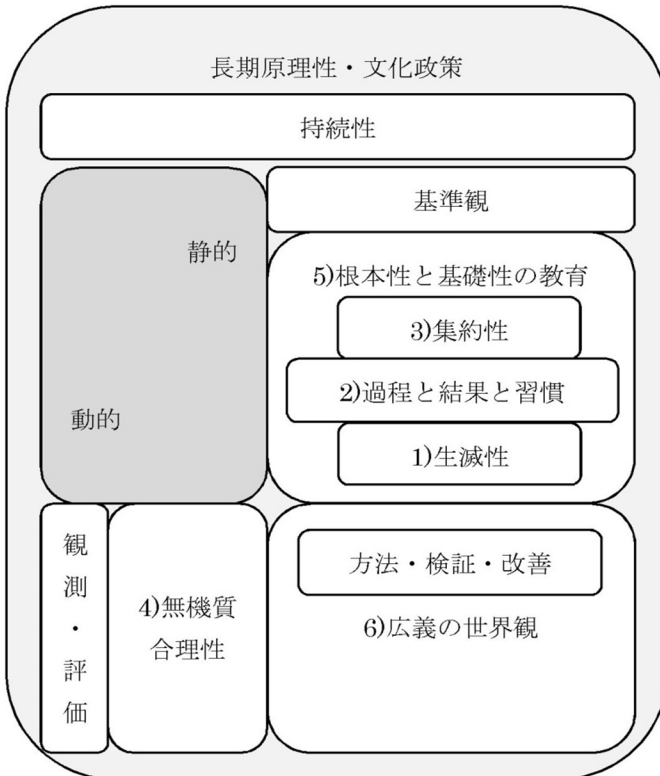
7-3 文化政策

生と人間の良好な習慣と性質と理念概念性は無限的な生として記憶に残り現象性に回る。負の性質を残すか、正の増す性質を作るか。

- 1)生滅性
- 2)過程と結果と習慣
- 3)集約性
- 4)無機質合理性
- 5)根本性と基礎性の教育
- 6)広義の世界観

主題性	文化観	概念性
方法	政策	感性、概念、精神、感覚

全体大局性	文化 不動と変動と最良性、静態と動態と動静、永続的生 体系と周期と持続性
特定性	社会、自然、生態 生命、活動、人間
根本性	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">生命観</div> 根幹性：感性概念精神身体 生滅性：生と滅、間の因果、人間観



8)科目性、主体性学

8-1 主体とは

独立性とは、主体性とは、領域性、主権、生命とは、人間とは、人格とは、自己決定、依存と補完、関係性、支配従属性、対等性、憲法、国家観、基礎となる生命人間観、感性と概念と精神と身体の相関習慣、

8-2 欲求

五感と喜怒哀楽、感覚と感性、
財欲、権力欲、技能欲、創造欲、出世欲、根の歪な全体主義、

8-3 気質・性質

8-3-1 歪性

装飾性、虚栄心、ハッタリ症、脅し、騙し、虚言癖、チンピラ気性、
ピンハネ、中抜き、盗み症、売国、二重人格、無政府主義、根さ仕草、
拝金主義、金満経営、がり勉、ボンボン、狸とキツネ、
火事場泥棒、説教強盗、褒め殺し、風評被害、洗脳、扇動、虚偽、歪曲、
はぐらかし、時間稼ぎ、いいわけ、愚図、責任転嫁、
飛び越えた地位の取得、過程省略、金で地位を買う、裏口、縁故採用、必要
な観点が起こらない、混乱、急変、急進、
劣等感、負けず嫌い、コンプレックス、小人、未熟性、
恨み辛みの感情、成長過程の不良、
人形ロボット、台本役者、無思考、受動、力を持つと気がでかくなり暴走
する。制御不能、自律の欠如、概念と精神性の不足、感性の歪性、感覚反
応増進、情緒性の不安定、支離滅裂な言動、外界ばかりが気になる、受動
的、自製の弱さ、自己基準の不在、物理受動、

8-3-2 正常・健全、祈願理念性

正々堂々、潔い、謙虚、誠実、信用、信頼、勤勉、正直、正道、
言行表裏一致、習慣性質、安全安定安心と繁栄成長自由と健全持続、

8-4 関係性：対等・主従

理論が必要、道義、道理、倫理道德、世界観、見識、
男女、子供と大人、若年と想念と老年、
労使、大国と小国、親会社と下請け、主従、奴隷、対等、平等、

8-5 対話・交流

媚びる、拝む、汚職、横領、裏金、過度な期待、過度な要望、
貸し借り、成長過程、恩を感じる、お返ししたい、信じていた、裏切られ
た、恨み辛み、仕返しする、相対の物理強弱、期待効果、過不足、均衡、
経験と理論、歴史と理論、動態と静態、

8-6 生産

狩猟と農耕、習慣と性質、詐欺暴力性と健全性、ギャンブル性、
犯罪性、暴力、詐欺、パワハラ、犬猫体質、優位的地位の乱用、
美辞麗句、欺き、言行乖離真逆、支離滅裂、羅列、断片錯綜、重複、力に
相応しい概念、見識、技能と政策と知識と概念、
情報と知識と概念と見識、理想主義と現実主義、内面と外形と内外、

8-7 資源流通

人、物、金、情報、知識、見識、意図する世界観、
自立、自律、自制、受動、基準の明示、公平な運用、

8-8 社会性、政治性

個々人性と社会性、利己性と奉仕性、私と公、閉鎖性と開放性、
社会主義、自由主義、右翼、左翼、保守と革新、
民主と独裁、法治性と力の支配、両極と間の観点、

8-9 学問、教育

基礎と専門、文系と理系、専門職と総合職、体系と周期と持続、
根本論と総論と各論、

8-10 抽象原理性

人柄、国柄、領域性、枝葉と根幹の性質、定番と変則と季節、領域の中枢、基軸周辺全体、抱く生命性と世界観・領域観と活動性、体系と周期と持続の集約観、局所現象と構造と習慣性質、発想と思考と行為の傾向、色艶過多、論理性の希薄、情動と機能、内面と外形、

8-11 基準性と両極性、適度性と過剰性

単細胞、因果の短絡、効率過多、衛生過多、過敏性、物理因果の強まり、効果性重視、即効性、清潔、几帳面、神経質、整理されない、知の詰め込み、枝葉過多、基軸の不明瞭、鈍感性言葉概念の多産、意味不明性、曖昧、陶醉、不潔、温和、穏やか、肥満な保守性、破壊的自由、詐欺と暴力性、機械化、自動化、無機質化、規模の合理、画一と多様、頭と手足の分断、根本性の欠陥、サイバー犯罪、情報盗み、技術の悪用、

8-12 定常性・正常性

平等の感性、思考と理性、概念、世界観、標準性、過不足、客観評価、資源分配、満足不満足、再生産、分散、

8-13 問題性の抽象観点

動力上の問題、概念形成上の問題、概念と運用上、現象と流通上、資源分配上、の問題、再生産不能、分散、破壊と消滅性、

8-14 義務教育、基礎教育、共通教育

樹木と人間、生の原型、活動法則性、理論と実務と歴史、宗教哲学と教育と経済と政治と産業と科学技術、創造の包括観、学問体系、成長過程論、思想性と活動性と世界観、定常と非常と異常、根本と基礎と専門と全体大局性、縦横の整合、動静、不動と変動、神仏と人間、普遍的不変、文化性、永続思想と主体性学、